
化かされた話—Trick star 2—

庭川 ヒロ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

化かされた話―Trick star 2―

【Nコード】

N2840I

【作者名】

庭川 ヒロ

【あらすじ】

自由気ままに旅をするキノとモトラド（注、二輪車）のエルメス。今回訪れた国ではたくさんの歓迎を受けたのだが……

鮮やかな緑の森の中に一本の道があった。道は南北に向かって伸びている。

その道を一台のモトラド（注・二輪車。空を飛ばないものだけを指す。）と一人の旅人が走っている。

旅人は十代後半に見える若い人間だった。どこか疲れている顔をしている。

「まだ着かないの？キノ」

モトラドが運転手に向かって話しかける。若い男の子のような声だった。

「まだだよ。エルメス」

キノと呼ばれた旅人はエルメスと呼んだモトラドに応える。エルメスはその後しばらく黙った。

「ホントに道、あつてるの？」

エルメスは突然キノに聞く。

「道はあつてるはずだよ。前の国で見かけた旅人がその国に滞在していたつてことで教えてくれたんだから」

「その旅人は『すぐに着くはずだから』って言うてただけだね」

エルメスが愚痴を言う。道は地平線までずっと続いていた。

「ねえ、その国、ホントにあるの？キノは騙されたんじゃないの？」

「そんなはずはないよ。目印だつてあつていたし」

「前の国を出発してから、もう30日たったよ。前の国でできなかったホイールとプラグの交換を早くしたいよ。」

「僕だつて真つ白なシャツで寝たいし、豪華な食事もしたいさ。でも、まだ着かないんじゃないよ、しょうがないよ」

キノはため息をつく。まだ、国らしきモノは見えない。

「とりあえず、このまま走ってみよう。日が落ちるまでに着けなか

つたらその国に行くのはあきらめよう。これでどうだい、エルメス？」

「分かった。キノに賛成。」

そしてまた二人は無言で走り続けた。

それからエルメスが「本当に国があるの」という問いを137回言ったとき地平線に一つの物陰が見えた。どうやら国のようだった。

「やっと見えてきたよ。エルメス」

走るのをやめて国を見ながら、キノはエルメスに言う。

「モトラドを整備してくれるところがあればいいんだけどね」

「豪華な食事と温かいシャワーがある国だったらさらにいいね」

「ところであの国はどんな国だって聞いたの？」

「旅人からは『この国から西に行けばおいしい物がたくさん食べられる国がある』ということしか聞かなかった。全部、聞いてちゃったらつままないだろうし、知らない方がいいんだよ」

「ピラフがホタテ ってやつだね」

「・・・・・・知らぬが仏？」

「そうそれ！」

それからエルメスは黙った。

「とにかく、早く国に行こうよ」

「そうだね」

そして二人はまた走り始めた。

「我が国へようこそおいでくださいました。歓迎します」

そついつて門番の兵士が笑顔で敬礼する。

「僕の名前はキノ、こっちは相棒のエルメス。観光と休養で三日間の滞在をお願いします」

兵士は箱形の白いものを出して何かをキーボードに打ち込んでから、「問題ありません。入国を心から歓迎します。これは地図です。出

国するときに返してくださいね」

「ありがとうございます。」

「イヤー、この国はすごいね！ホイールもプラグも交換がタダだったし」

「どこに行っても、歓迎ムードでとっても安くしてくれたしね。おかげで大量に予備の弾を買うことができた」

大きくて、ふかふかのベッドの横でエルメスと白いシャツに着替えたキノは満足そうに話していた。

「ここまで気前がいい国は、初めてだ」

キノは言った。

「確かに。何でこんなに気前がいいんだろうねえ」

エルメスも不思議そうに話す。

キノが町にはいると、たくさんの人たちがよってきた。そして口々に

「ようこそ、旅人さん！」「もう宿は決まっているの？」「決まっ

てないなら、案内してあげるよ！」

と言ってきた。

キノは、「安くて、おいしい食事とシャワーがあるホテルを探しているんですけど……。」といってホテルを教えてもらおうとした。

住民達はああでもない、こうでもないと話合っつて最終的にそこから比較的近いホテルを紹介された。

「でもエルメス、ボクは何かが違っていた気がするんだよ」キノは不思議そうに言う。

「そう？気がつかなかったけど？」

「まあ、そんなことはいいや。今日はなんだかすごく眠い。近くに

ふかふかのベッドがあるせいかな？」

「さいですか。晩ご飯はまだ食べてないけどいいの？」

その問いにキノは少し悩んでから、きっぱり言った。

「明日、今日の分とまとめて食べる」

それから三日後、キノとエルメスはメインストリートにあるカフェでお茶を飲んでいた。

「いやー、とてもいい国だったねーキノ」

「たしかに。おいしいものをたくさん食べることができたし。」

『ミトラシダング』とかいうデザートは絶品だった……」

そんな会話をしていると、

「旅人さん、すぐに出国しないのであれば、ちょっといいかな」

と、一人の男が話しかけてきた。中年ほどの男で特に目立つような特徴はなかった。

「ええ、大丈夫です」

「我が国はどうだった？何かおかしいところはなかったかい？」

「いいえ。今までにないくらい、いい国でした」

「それはよかった」

男はにつこりとして話す。それから、他愛のない話をして去っていった。

「キノ、そういえば来た時にいつてた、『違っていた何か』ってのは分かったの？」

「いや、どうやら気のせいだったみたいだ。さて、そろそろ行こうか、エルメス」

「ほい、きた」

そしてキノはエルメスに乗って城門を出た。

そして一人と一台は森の中で目覚めた。

「あれ？」「へ……………」

キノとエルメスは何が起こったか、分からないという顔をして呆けていたら

——くすくす……………くすくす……………

と、どこからか笑い声が聞こえてきた。

「……………」

キノとエルメスはしばらくそうしていたが、やがて笑い声が止まると

「……………それじゃあ行こうか、エルメス」

「……………そうだね、キノ」

そういつてキノ達は次の国へ向かった。

（後書き）

スイマセン・・・。（――）>

途中から訳分からなくなっていました。

早い話、キノ達がユウレイとかタヌキとかに化かされていたツテい
う話でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2840i/>

化かされた話—Trick star 2—

2010年10月16日12時53分発行